原小だより

横浜市立原小学校
令和７年４月 30 日
５月号
http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/hara/

『ピクニック』
イギリス民謡
作詞：萩原　英一

丘を越え　行こうよ
口笛　吹きつつ
空は澄み　青空　牧場をさして
歌おう　ほがらに
ともに手をとり
ラン ララランラン ラララ
ララララ　あひるさん
（ガガガガー）
ラララララ　やぎさんも
（メーエ）
ララ　歌声あわせよ
足並みそろえよ
今日はゆかいだ

返報性

校長　　蒲谷　猛

「相手から何かを与えられると、こちらも同じように何かをお返ししないと申し訳ない」という気持ちになる人の心の働きを、返報性と（互酬性とも）言います。何かいただきものをしたら、何か自分も相応なものを返さないといけないなという気持ちが生じるのは、社会性の基盤として古くから人に備わっている心性なのだそうです。ものでなくても、例えば、人に親切にしてもらったら、恩を返したくなりますし、好意を寄せられると自分も相手に好意の感情を抱きます。ピンチの時に友人に救ってもらったら、「次は自分が助けてあげたい」と思いますよね。

返報性のプラスの側面を見てきましたけれど、マイナスの側面もあります。それは、敵意を向けられると、相手に敵意を抱くという心の働きです。相手から悪口を言われたら言い返したくなりますし、横柄な態度をとられると同様な態度で応じたくなるものです。ポジティブな「お返し」だけではなく、「仕返し」というネガティブな側面も持ち合わせているわけですよね。

子どものよりよい言動を引き出したいとき、「自分がされていやなことは、人にしちゃだめなんだよ。」と諭すことがよくありますが、考えてみるとこれも返報性がベースになっているとも言えます。ポジティブにいくならば、「あなたが人にしてほしいと思うことを人にしなさい。」となりますね。

でも、よく考えてみると、「自分がいやなことを人にしない」も、「自分がしてほしいことを人にする」も、どちらもおかしいと私は思うのです。だって、人にされたらいやなことはその人によって違うし、やってもらってうれしいことも人によって違うじゃないですか。子どもたちには、自分の尺度を意識的・無意識的に当てはめようとするのではなく、されたらいやなことも、してもらってうれしいことも、一人ひとり違う物差しをもっているのだという考え方ができ、相手がどんな物差しをもっているのかを知ろうと努力できる人であってほしいのです。

今年度の学校生活も２か月めを迎えます。航空機で言えば、離陸をして巡航高度目指して高度を上げているところ。一緒に過ごす人の持ち味・好み・苦手などについて、大人も子ども互いに相手を知り尽くすならば今です。「やがて、わかる。」では遅い。豊かなかかわり合いの基盤ですから。